第1号議案　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和5年6月3日

令和4年度　ポニーの会　事業報告(案)

はじめに

　コロナの波に翻弄されつつも日常を少しずつ取り戻した1年だった。利用者・家族・職員と次々に陽性者が出て対応に追われた時期があったが、今回はメールを活用し、発熱者や陽性者の状況を逐次保護者や職員に連絡を入れ迅速に情報を共有するように努めた。コロナ感染状況を見ながら、小規模ながらイベントも復活し利用者の笑顔もたくさん見ることができた。

　また、地域の方とのつながりも少しずつ再開できて、高須地区凧あげ大会はポニーの畑のある土地をつかって賑やかに行われた。

令和4年度　施設運営全体概況報告

1. 本　部
2. 会議

Ⅰ.評議委員会・・・開催日　6/11　　　　　　　　　　　　　 計1回

　 　Ⅱ.理事会・・・・・開催日　6/11、10/27、3/30　　　　　　　計3回

 Ⅲ.外部会議に参加

取手市社会福祉協議会理事会・取手市自立支援協議会・南中地域の会・高須公民館運営員会

1. 地域貢献活動の実績

サロン・・毎週火曜日・・保護者、近隣住民が集まり手仕事を楽しむ場を提供

シルバーリハビリ体操・・毎月1回・・保護者、近隣住民の健康増進に貢献

近隣のお祭りに参加（高須公民館、藤代スカイハイツ、光風台団地、六郷公民館等）
聖徳高等学校ひまわりプロジェクトとコラボ

1. 職員数、車両数

〈職員構成〉

正職員１９人、非常勤支援員３４人、看護師３人、作業療法士１人、理学療法士１人、

言語聴覚士１人、厨房職員６人、ケアホーム世話人７人、カフェスタッフ３人、運転手

１１人　　合計８８人

〈車両構成〉

キャラバン10人乗り・・6台、リフト車10人乗り・・2台、7人乗り乗用車・・3台

助手席可動型軽自動車・・2台、軽自動車・・1台、軽貨物・・2台、軽トラック・・2台

トラック・・1台　　　合計　18台

（2）利用者支援状況

* 1. 各事業所定員 〈2022年4月より3名の方が通所を開始した.〉

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ポニーの家多機能 | 定員 | 登録 | 平均年齢 | 稼働率 |
| 生活介護 | 38人 | 41人 | 29.1歳 | 87％ |
| 就労継続支援B型 | 10人 | 10人 | 26.5歳 | 82％ |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ポニーの家生活介護 | 定員 | 登録 | 平均年齢 | 稼働率 |
| 生活介護 | 20人 | 27人 | 33歳 | 88％ |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ケアホーム夢未来 | 定員 | 登録 | 平均年齢 | 稼働率 |
| 夢 | 7人 | 7人 | 35.6歳 | 93% |
| 未来 | 7人 | 6人 | 31.8歳 | 82% |

* 1. 職員研修・・職員としての意識向上・レベルアップのため各種研修・講習会・会議に参加した

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 日時 | 名称 | 参加人数 |
| 4/20 | サービス管理責任者研修（更新） | 4名 |
| 4/20 | サービス管理責任者研修（実践） | 1名 |
| 4/25 | 基礎知識アップ研修 | 1名 |
| 4/28 | 新任職員研修 | 1名 |
| 5/11 | 医療的ケア教員講習 | 2名 |
| 5/13 | 令和4年度経営改善研修 | 1名 |
| 5/25 | サービス管理責任者研修（更新） | 1名 |
| 5/26 | 伝える技術研修 | 1名 |
| 5/28 | コーヒー焙煎一日セミナー | 1名 |
| 5/31 | 虐待を防ぐために支援者に求められる考え方（内部研修） | 28名 |
| 6/1 | 虐待を防ぐために支援者に求められる考え方（内部研修） | 25名 |
| 6/2 | 虐待を防ぐために支援者に求められる考え方（内部研修） | 32名 |
| 6/20 | サービス管理責任者研修（基礎） | 2名 |
| 7/11 | クレーム対応研修 | 1名 |
| 7/19 | 相談支援従事者現任研修 | 1名 |
| 7/29 | コーヒー焙煎セミナー | 1名 |
| 8/24 | 強度行動障害者研修 | 1名 |
| 9/7 | ハラスメント防止法の成立と対応 | 1名 |
| 10/17 | サービス管理責任者研修（基礎） | 1名 |
| 12/6 | サービス管理責任者研修（基礎） | 1名 |
| 12/15.16 | 防火管理者講習 | 1名 |
| 1/20 | 強度行動障害者研修 | 1名 |
| 3/1 | 相談支援現任者研修 | 1名 |
| 合計 |  | 110名 |

* 1. 各種会議

　　Ⅰ.支援会議・・・利用者の関係支援員が集まり適宜対応を話し合った。

　　Ⅱ.職員朝礼、夕礼・・職員の共通認識を図るために毎日、朝礼9時、夕礼4時に行った。

　　Ⅲ.給食会議（利用者会議）・・・・開催日　毎月第3金曜日　　計12回

　　Ⅳ.その他・・・・・ケアホーム会議・厨房会議・常勤会議・・適宜

* 1. 実習生受け入れ

　　6/1～3　　　　美浦特別支援学校　　　　　　 　1名

　　6/6　　　　　　美浦特別支援学校　　　　　 　1名

　　6/13～17　　　美浦特別支援学校　　　　　　　 2名

　　7/1　　　　　　体験利用　　　　　　　　　　　 1名

　　10/3～11/7　　 社会福祉士受験のための実習性　 1名

　　11/28～12/2　　美浦特別支援学校　　　　　 　1名

　　12/5～12/9　　 美浦特別支援学校　　　 　1名

　　12/12～12/16　 美浦特別支援学校　　　 　1名

　　聖徳高等学校　 高校生ポニーズカフェにて体験学習を行う　3回

* 1. 見学者

　　特別支援学校の親子15組の方が、卒業後の進路先を決めるために見学にみえた。

　事業所職員の方が2組

* 1. 建物・設備・車両等の保守管理状況

【車両】

・ステップワゴン・・自損事故にて廃車

・中古10人乗りキャラバン購入・・ステップワゴンの代替

・ワゴンR（助手席可動タイプ）・・ポニーの会後援会より受領

・キャラバン10人乗り・・リース期間終了後購入

【設備】

・ケアホーム夢・・ウッドデッキ解体→アルミデッキ２台購入

・ケアホーム夢・・リビング用テレビ買い替え

・ケアホーム未来・・洗濯乾燥機買い替え

・新棟・・ブレーカー開閉器不具合交換修理

・厨房機器・・ホシザキと保守契約を結ぶ

・手工芸班・・刺繍ミシン修理（ミシンサービスセンター）

・乗用草刈り機修理・・若井株式会社

・食品棟クッキー工房・・壁紙修理

・就労継続支援B・・洗濯乾燥機修理

・就労継続支援B・・洗濯機買い替え

・就労継続支援B（茨城県施設整備補助金を受領）・・

コーヒー豆貯蔵庫、電動ミル、ドリップパック材料を整備

・就労継続支援B（ヤマト福祉財団助成金（障碍者給料増額支援助成金）受領）

・・コーヒー焙煎機購入

（3）事業別事業報告

【全体】

今年度も、コロナ渦ではあったが感染対策を講じたうえで、利用者に出来る限りの活動を提供していった。

行事もコロナ禍の状況も踏まえながら形を変えて行った。運動会は、人数を減らし2回に分けて高須体育館にて行った。短時間ではあったが久しぶりの運動会ということで皆とても楽しそうに体を動かしていた。ポニーズフェスティバルではご家族や地域の方々の参加は控えていただき、利用者と職員のみで、施設内にいくつかのブースを設けて的当てやヨーヨー釣り等のミニゲームを展開し利用者同士の交流の場になった。秋の遠足は5つの班に分けて稲敷市にある【森のイバライド】に出掛け、乗り物や体験、昼食などを楽しみながら外出する事が出来た。

日々の支援においても、体調不良者が出ない様、普段から細やかに観察をし、適切な対応を行っていった。また、コロナウイルス感染者が増えてきた際にはご家庭に電話やメールなどで周知し、年末には家族送迎のご協力をお願いした。

昨年に続き、身体機能の維持・向上の為、理学療法士・作業療法士の機能訓練を実施し個々に合ったリハビリの提供、言語聴覚士には、食事の提供の仕方や食形態の見直しのアドバイスを受けた。今年度は作業療法士助言のもと、機能訓練室に『スヌーズレン』（リラックスルーム）を設けた。赤い羽根共同募金のNHK歳末助け合いに応募し、寄付金で使用する物を購入。蛍光グッズを装飾し、感覚刺激を養うグッズを散りばめて幻想的な空間を演出した。その空間の中で、利用者がクッションやハンモックに寝転がることで、気持ちを穏やかにさせ、癒し効果や集中力が高まるなどその後の活動に良い影響が出ている。

【ポニーの家多機能】

1. 生活介護

活動報告

作業や余暇活動をとおして、生活能力の向上と健康維持を目指し、基本的な生活習慣を身に着け、それぞれの能力や個性を充分に発揮し、社会参加の意識がもてるように支援して来た。

（内職請負作業部門）

ハンガーのシール剥がし・部品取り、工事用ベストの検品、アクリル板のシールはがし等の作業を行ってきた。それぞれの得意分野の作業を提供してきたが、納期等に余裕がある時は、色々な作業に挑戦し能力の向上を図れるようにしてきた。また、週に２回３０分～４０分のウオーキングも継続して行い体を動かした。

（農業部門）

農作業は職員販売用に季節の野菜を作った。種・苗から収穫するまでの工程を覚え、収穫・販売する喜びを感じられるように支援して来た。夏の暑い日は熱中症に気をつけながら作業を行った。

（手工芸部門）

地域のイベントが中止になり販売場所が減ってしまったが、PONY‘S　CAFÉ、庁舎売店、『買ってNETバザール』や地域のお祭り等に製品を出荷した。また、ステンシルバックを多数受注した時には手分けして作成し、納品に間に合わせた。「たくさん作れて嬉しい」と利用者の喜びの声が聞かれた。それぞれの能力に合わせ説明の仕方を変えるなどして支援した。

（クッキー製造部門）

カフェやJAとりでの納品や、さとふる対応の為の製造を継続してきた。4月当初マスクや帽子をかぶり身支度を整えるだけでかなりの時間を要していた利用者も１年が終わるころには皆と協力して生地を丸められるようになってきた。一人一人に適した作業スキルの向上を目指し、それぞれに適した声掛け等を考えながら支援した。ベイク班の協力もあり、焼きの工程の負担が減った。

（パン製造部門）

金曜日の給食には自家製のパンを提供し、焼き立てのパンが喜ばれている。火曜日にサロンに参加されている方々もポニーのパンを購入できることを楽しみにしている。

自分たちが作ったパンを楽しみに待ってくれている方々のことを思い丁寧に作業する様に支援した。

（売店・きまま部門）

藤代庁舎2名、利用者用の喫茶きまま2名が曜日ごとに担当し接客をした。接客の態度や言葉遣いを身に着け、自信を持って接客できる様に支援した。

（クリーン部門）

高須体育館の受託清掃の他にも洗車作業や施設内清掃を中心に行って来た。個々のペースを尊重し、みんなで作業に取り組めるように支援した。厨房の食洗作業の際には防水のエプロンを身に着け大鍋洗いや、ゴミまとめなど自分の役割を自信をもって行う姿がみられた。

1. 就労継続支援B型

利用者の適性に応じて安定した能力が発揮できるよう、精神面や体調面に配慮して支援した。

（菓子製造部門）

個々の能力が発揮できる環境を整え、協力して作業に取り組めるように支援した。菓子を製造する過程の中で利用者同士声を掛け合う姿も多くみられるようになり、お互いに協力しあって作業することが出来る様になってきた。

（カフェ部門）

取手駅前リボンとりで３階のPONY’S　CAFEでは、利用者の働く場として食器洗いやランチづくり、接客等に携わった。当初は3人程の利用者が順番で作業していたが、カフェの作業に関わりたい利用者は多く、利用者同士が自発的に丁寧な言葉遣いや大きな声であいさつする等を練習し、現在では5人以上の利用者が曜日を決めて日替わりでカフェの作業に携わっている。

（クリーン部門）

外部受託のマンション・アパートの共有部分の清掃はマンション・アパートまでの距離などを考慮し中止した。桜が丘自治会館の清掃は継続して行ってきた。外部での作業は、常にみられていることを念頭に置き言動に気を付けながら丁寧な作業をした。また、給食後の食器洗浄作業も役割が決まっており、自分の役割をきっちりと果たすことができた。

【ポニーの家生活介護】

（箸作業部門）

今年度もアオトプラス（株）から受託した箸入れ作業を継続する事が出来た。箸入れやペーパースプーンの袋入れに加え、小さなおしぼりや楊枝入れなどを行っていった。利用者が取り組みやすい方法を考えて提供することで、上手に出来たという自信に繋げていった。また、時には外へ出て気分転換を図り、運動機能の維持と利用者同士のコミュニケーションの場を作ってきた。

（生活ドルチェ部門）

個々のリハビリ計画に沿って、理学療法士や作業療法士によるリハビリをおこない身体機能の維持向上だけでなく専門的なアドバイスのもとに仕事や生活において、各々の力を引き出す支援の向上を目指し実施した。また、3ヶ月に1度おこなっていた歯科検診は定期的に実施、３名の利用者が利用した。ミュージックケアや創作活動、散歩等を通し心豊かな生活を目指し充足度を高める活動や、それぞれの利用者が心穏やかに楽しく過ごせる様支援した。

（製本印刷部門）

パソコン作業の中で能力に応じて仕事を配分し、個々のスキルも向上するよう支援に努めた。職員や外注の名刺等を受注作成し、12月には年賀状印刷の注文を受け納品した。また、施設内で使用するCD作成や写真の取り込みなども行った。毎月の仕事として給食の献立表、検食表、フレンズの会の議事録などがあり、これらに関しては原稿を催促されるほどで、自信をもって作業に取り組んでいる。

（未来工房部門）

ボールペン・慶弔ペン封入を中心に進めながら、荷物運び・ペットボトル潰し・段ボール処理など他班や事務所のお手伝い等を行った。また、４年度は初めてながらチョコの箱作りを行った。工程が多く、難しい部分もあるので、一部職員がサポートをしながら未来工房班全員が関われるよう促した。また、余暇活動や、定期的な運動も積極的に行い、心身の安定をしていった。さらに、生活面の課題も見出し、身支度、手洗いなど利用者一人ひとりに必要な部分を確認しながら生活の質を維持できるよう働きかけた。

【ケアホーム夢未来】

夢棟では、各担当職員との関係性を築くことを目的として、利用者と買い物リストを作り、二人で買い物に出掛けた。日中とはまた違った笑顔や様子を見ることが出来た。休日には昼食作りやデザート作り、四季折々の創作をして楽しく過ごせるよう支援した。夕食後のダンスは継続して行い、適度に体を動かしている。

　未来棟では、一人ひとりの生活リズムを尊重し、各部屋で安心して生活できるようにしていった。また、洗濯物干しや食器洗いなどのお手伝いもしていただいた。さらに、祝日にはお菓子作りや映画鑑賞なども行いケアホーム内でも楽しく過ごせるよう働きかけた。

　ケアホーム利用者は、４回目以降のワクチン接種については任意で、ご家族・ご本人の判断で行う様働きかけた。

【相談支援事業所キャンディ】

ポニーの家の利用者66名その他56名計122名の相談支援を担当した。

関係機関と連携をとり、適切に役割分担をして支援を行なうことができた。グループホームへの入居から生活保護の申請までグループホームの支援員と連携して支援を行なった。また利用者が緊急入院することになり介護保険のケアマネージャーと協力して支援した。

さらに入所施設を退所し自宅での生活に戻るため、居宅介護事業所・生活介護事業所・訪問看護事業所と連携し調整を行なった。

それぞれにさまざまな課題がありながらも、利用者本人の「自分の希望を実現したい」という気持ちが、支援者たちを動かし、連携を強めてくれていると感じた。